

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	臨床心理学 (Clinical Psychology)		授業コード	E033701
担当教員名	高橋 淳一郎		科目ナンバリングコード	E21005
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	産業カウンセラーの資格取得を目指す学生は必ず履修してください。 ピアヘルパーの資格取得を目指す学生は必ず履修してください。			
受講心得	遅刻、講義中の携帯電話の使用、おしゃべり、無断外室など、他の学生に迷惑のかかる行為は禁止です。大学生として最低限のマナーは守って履修してください。			
教科書	実践に役立つ臨床心理学 塩崎尚美(編著) 北樹出版			
参考文献及び指定図書	発達臨床心理学ハンドブック 大石史博・西川隆蔵・中村義行(編) ナカニシヤ出版 発達臨床心理学の最前線 杉原一昭(監修) 教育出版 カウンセリング／心理療法の4つの源流と比較 W.トライデン&J.ミットン(著) 酒井汀(訳) 北大路書房			
関連科目	心理学、発達心理学、カウンセリング、心理アセスメント、精神保健学			

授業の目的	<p>私たちが成長発達を続ける中で、人は様々な壁にぶつかります。その中で人は悩み、苦しみながら問題を乗り越えることで一回りも二回りも大きく成長していくわけです。しかし、すべての人がすべての問題を簡単に乗り越えられるわけもなく、また、必ずしも自分ひとりで乗り越えなければならぬものでもありません。この講義では、実際に私たちの人生においてどのような壁が待ち構えているのか、そしてそれに対して私たちがどのように立ち向かうことができるのか、またどのような援助ができるのか、といったことの基本となる理論について学びます。</p>
授業の概要	<p>人の心は非常に複雑で、簡単には理解できません。しかし、理解するヒントを得ることはできるかもしれません。この講義では臨床心理学の基本的な理論を学んでいきます。この中で取り上げる理論は臨床心理学の発展に重要な役割を果たしてきたものです。原典は非常に複雑なものですが、できるだけ簡単にそのエッセンスを紹介していきます。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション</b> 「臨床」という言葉の意味から、臨床心理学の目的と意義について考えていきます。	リアクションペーパーの提出
<b>第2週：臨床心理学の実践領域</b> 臨床心理学が対象とするものとは、また、臨床心理学の実践の現場とはどのようなものかを紹介していきます。	テキストp8～p19 リアクションペーパーの提出
<b>第3週：パーソナリティ理論</b> 援助対象を理解するために、まずはパーソナリティと何か、どのように理解するものかといった基本的な枠組みについて学んでいきます。	テキストp20～p40 リアクションペーパーの提出
<b>第4週：フロイトの精神分析理論①</b> 精神分析理論を提唱したフロイトの生い立ちと、フロイトが「無意識」を発見していった過程について学びます。	テキストp41～p45 リアクションペーパーの提出
<b>第5週：フロイトの精神分析理論②</b> フロイトは人の心をどのように捉えたのでしょうか。フロイトが示した心の構造について学んでいきます。	テキストp46～p47、補助プリント リアクションペーパーの提出
<b>第6週：フロイトの精神分析理論③</b> 精神分析理論における心の防衛システムとして、「防衛機制」と呼ばれるものがあります。普段から知らないうちに私たちが使っているこのシステムの概要について具体例を挙げながら学んでいきます。	テキストp47、補助プリント リアクションペーパーの提出
<b>第7週：フロイトの精神分析理論④</b> 私たちが環境に適應するために心を成長させていく過程について、フロイトがどのように考えていたのでしょうか。フロイトの心の発達論の概要を学びます。	テキストp47～p49 リアクションペーパーの提出

<b>第8週：ユング心理学①</b> フロイトと並ぶ精神分析の大家がユングです。その生い立ちと、フロイトに学びフロイトと決別して独自の理論を構築していく過程について紹介します。	テキストp59～p61 リアクションペーパーの提出	
<b>第9週：ユング心理学②</b> フロイトから決別した後、ユングが提唱していった分析心理学の理論を学びます。	テキストp62～p66 リアクションペーパーの提出	
<b>第10週：精神分析における「夢」</b> フロイトもユングも「夢」にその人の無意識が現れると考え、研究対象としました。ここではフロイトおよびユングが「夢」をどのように理解していったのか学んでいきます。	補助プリント リアクションペーパーの提出	
<b>第11週：クライエント中心療法①</b> クライエント中心という考え方を提唱し、20世紀のカウンセリング心理学に大きな影響を与えたのロジャーズです。心理学者としてのロジャーズの歴史と、クライエント中心にたどり着いた流について学びます。	テキストp78～p80 リアクションペーパーの提出	
<b>第12週：クライエント中心療法②</b> ロジャーズが唱えた「セラピストの基本的態度」(カウンセラーの3条件)とはどのような意味があるのか、一つずつ理解を深めていきます。	テキストp81～p85 リアクションペーパーの提出	
<b>第13週：クライエント中心療法③</b> ロジャーズは個別のカウンセリングから始まって、今では「エンカウンター」と言われるグループアプローチを大切にするようになりました。ここではカウンセリングにおけるグループアプローチの意味と効用について学びます。	テキストp86～p94 リアクションペーパーの提出	
<b>第14週：認知論①</b> 近年のカウンセリング・心理療法において大切な考え方が「認知」です。認知行動療法を提唱したエリスとベックの考え方に触れ、その異同について学びます。	補助プリント リアクションペーパーの提出	
<b>第15週：認知論②</b> 認知行動療法においてクライエントと問題を理解するのに大切な考え方である「認知モデル」および「認知の歪み」について学んでいきます。	補助プリント リアクションペーパーの提出	
<b>第16週：期末試験</b> これまでの内容について論述形式の試験を実施します。自筆ノートおよび講義内に配布したプリントは持ち込み可とし、試験時間は60分です。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①対人援助の基礎理論について概説できる。
<b>【知識・理解】</b>	②精神分析や認知論などの中心人物の生い立ちと理論の発展について説明できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	③精神分析の考え方に従った「人間の心」についての説明ができる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	④人間の心の働きと問題行動のつながりについて理解できる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		5点	20点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	30点	5点		
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	5点		
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	20点	5点		
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	毎回の講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。その内容について点数化し、評価に加えます。評価方法は以下の通りです。 A 講義の内容をよく理解し、振り返りながら自分の考えをしっかりと述べている。 B 講義の内容をよく理解し、振り返ることができる。 C 講義の内容をだいたい理解し、振り返ることができる。 D 講義の内容を一部理解し、振り返ることができる。
発表・その他(無形成果)	出席点を20点満点とし、1回の欠席ごとに2点を減点する方式で評価に取り入れます。